

令和3年度第2回社会教育委員の会議 議事録

令和3年度第2回清瀬市社会教育委員の会議が令和3年6月21日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和3年6月21日（月）午後3時00分～5時00分
- 2 会 場 生涯学習センター講座室1
- 3 議 長 高井正委員（議長）
- 4 出席委員 島澤良次委員（副議長）、齊藤しのぶ委員、西田由美子委員、松山鮎子委員、菊地俊一委員
- 5 事務局 坂田篤（教育長）、綾乃扶子（生涯学習スポーツ課長）
鈴木丈洋（生涯スポーツ係長）、峰岸義治（生涯学習係長）
若林幹輝（生涯学習係主事）

1 開会

高井議長：第2回社会教育委員の会議の開会を宣言

事務局：参加形態を説明

オンライン参加：高井議長、西田委員、松山委員

対面参加：島澤副議長、齊藤委員、菊地委員

田中委員欠席の旨を報告。

資料の確認（事前送付の事業報告と社会教育団体の補助金の資料2点）

（事務局）

それでは、ここから会議の進行を高井議長にお願いしたいと思う。

（高井議長）

今回、資料の分量が多いので、説明の際にどの資料か確認した上で進めて行ければと思っている。それでは、次第の通りに進めていきたいと思う。

2 報告

（1）令和2年度事業報告について

(事務局)

生涯学習スポーツ課、図書館、博物館の令和2年度事業報告を行う。図書館、博物館についての質問がある場合は、取りまとめて後日回答予定。まず最初に、生涯学習スポーツ課生涯学習系の事業報告を峰岸係長から行う。

～生涯学習係事業報告～

～生涯スポーツ係事業報告～

(高井議長)

確認したいことや質問があればご発言下さい。

学校支援が活発になってきたことで、齊藤委員や菊地委員から見て今までと違って見えてきたことなどがあれば教えてほしい。連携担当の教員もコーディネーターの研修会に参加されたと思うが、コーディネーターの参加者数と地域連携担当教員の参加者数はどの程度か。

(齊藤委員)

地域連携担当教員は、各校1名配置されているので、その日欠席された数人の方以外はほとんど参加してもらった。小学校部会と中学校部会に分かれ、学校支援本部について学校の先生と一緒に意見交換を行うことができた。

令和2年度、全14校に設置され、全校一致で進めていこうと考えていたが、コロナの影響で一時期活動をストップする状況になってしまった。しかし、その後は支援本部と学校で、この状況下で少しでもできることを模索しながら2学期ごろから色々と動き出した。

(事務局)

研修会参加者の実数は確認する。

(高井議長)

ほとんどの連携教員の方が出ていたことが分かったので、詳細な数字の確認は必要ない。地域連携担当教員が配置されても、実際に機能するかどうかが大それたと思っているので、連携担当教員同士が繋がる機会がとても大切だと思い、お尋ねした。

菊地委員いかがであるか。

(菊地委員)

六小の地域支援本部との関りという部分でお話をさせていただく。

昔、「おやじの会」が企画して行っていたものであるが、今は「サバイバルキャンプ」を学校支援本部で行っている。夏にやる予定が、コロナで延期して10月頃になった。避難所設営訓練なので、コロナの状況下でもやった方が良いという判断で、保護者の了承を得ながら実施。児童は6年生で3～4名の不参加者がいたが、後は全員参加。教員も10名程度参加。5名は一緒に学校に泊まった。

「転落防止」の施工も学校支援本部に声をかけ実施してもらった。階段の踊り場の窓が、全開にすると転落する危険性があったので、相談したところすぐに金具を用意して下さり、窓に施工してもらった。

「土曜講座」を保護者・地域の方を対象に実施。企画から運営まで全て学校支援本部に行ってもらっている。

「登下校の見守り活動」を地域の方がやってくれていたが、昨年度末に相談があり、見守り活動をしている方が高齢になってきて、どうしてもこれ以上見守り隊としての活動は厳しいという声があった。その後、学校支援本部に相談したところ、支援本部として見守りボランティアを募集して見守りを継続しようということになった。

(高井議長)

今の説明を踏まえ、何か質問などあるか。

(松山委員)

コロナの状況で色々な事業が中止になって大変な状況だったが、今後このような状況が続く可能性もあると思うが、その場合こういった形で対応していくのか考えを伺いたい。

(事務局)

感染対策をしっかりととりながら、出来る限り事業を進めていきたいと考えている。出来ない事業については、代替施策を考えながら少しでも事業を展開していきたい。

(松山委員)

大変な状況だと思うが、是非そのように実施していただければと思う。

(高井議長)

ハンセン病の人権研修だが、撮影してYouTubeで配信し、100名以上の方に視聴してもらったとのことだが、普段アクセスしないような方も多く参加したことは、とても意味がある。さらに、人権研修は一昨年は実施していなかったので、新たな取り組みとしてとても良いと思った。社会教育の中で人権などはとても大事な分野だと思う。

その一方で、参加率が低い講座については、税金を投入して実施する意味を再度考えてもらうことも大切だと感じる。参加者が多ければ良いという訳ではないが、あまりに少な

いのも実施の意義を問われてしまうので、中身や周知の方法を見直すことも一つの手。

(事務局)

齊藤委員からご質問があるので、発言よろしいでしょうか。

(齊藤委員)

学校支援本部コーディネーター情報交換会等が出た質問があるので、菊地委員に校長会のことについて伺いたい。

- ① 地域連携担当教員が十分機能しているか。
- ② 学校支援本部の活用で学校間で温度差があるということが、コーディネーターの間でも話題になっている。校長会としてどのようにお考えか。また、このようなことについて話題に出ているのかを伺いたい。

(菊地委員)

校長会では、地域連携担当教員が機能しているか、また、各学校がどのような活動をしているか等は、情報共有できていないのが現状。ご質問を受け、はっとした部分がある。これを機に、校長会の中で話題にして情報共有していきたいと思う。私自身も、六小以外の学校支援本部についてあまり知らないのが現状。校長会で共有することで、本校のコーディネーターの方に色々と情報提供することも出来ると思う。今後、コミュニティスクールや適正規模適正配置などにも関わってくると思うので、校長会で話題にしていきたいと思う。

(高井議長)

地域連携担当教員同士の連携、コーディネーター同士の連携、両方大切。地域連携担当教員を設置したからといってすぐに機能するのは難しい部分があると思うが、校務分掌として位置づけられていれば、仕事として取り組まなければならないということで、子どもにとっても先生にとってもプラスになり、より可能性が広がりしっかりと機能することにつながっていくと思う。

島澤副議長が体育協会としてスポーツに関わっている立場から、市のスポーツ行政への疑問など何か伺いたいことなどはあるか。

(島澤副議長)

体育協会では、例年「美しくウォーキング」と「マラソン大会」を実施しているが、昨年からコロナで中止になったり、なかなか実施出来ない状況であった。このような状況ではあるが、市民の健幸のために出来るだけ事業を進めていきたいと思っている。

3 議題

(1) 社会教育団体の補助金について

(高井議長)

前回、石田波郷俳句大会の補助金の審議を行っていただいた。社会教育団体に補助金を出すときには、社会教育委員の意見を聞いてから行わなければならないと、社会教育法13条で定められている。補助をしては良いが、補助をしつつコントロールしてはいけな、ということでこのようなルールが決められている。

(事務局)

生涯スポーツ係の鈴木係長から説明させていただく。

～体育協会の補助金の説明～

(高井議長)

対象事業は2つあって、一つは運営全般に対して、二つ目はマスターズ大会の事業補助金、ということであることが分かった。

島澤副議長から何か補足などあるか。

(島澤副議長)

コロナの影響で活動できない部分もあるので、マスターズ大会の方へ活かすということを事務局では考えている。

(齊藤委員)

通常総会の議案書の6ページの下の部分に、自動販売機手数料と書いてあるが、これはどのような内容になるか。

(島澤副議長)

市民センターや内山サッカー場に設置してある自動販売機の売上になっている。

(高井議長)

体育協会が事業者と契約と設置を行い、収入が入ってくるという認識で良いか。

(島澤副議長)

その通りである。

(高井議長)

光熱水費などは体育協会が負担をしているのか。

(島澤副議長)

負担をしている。

(高井議長)

額としては100万近くになるのか。

(島澤副議長)

人里離れたところにも設置しているので、破損被害があり盗難防止をしっかりと行うようになった。

(高井議長)

議案書については、体育協会の全ての予算の支出が分かるものになっていて、今回の交付申請書というのは、全体の活動の中のごく一部として出てきているという理解になるわけである。補助対象事業に対する経費の部分だけの申請なので、自動販売機の収入などはまた別の法人会計の方に入ってくるということで、全体のものは申請書には出てこないということになっている。

他にご質問等が無いようであれば、補助金の交付要綱に基づいて支出を適正に行っていたらと思うので、社会教育委員の会議として了解したいと思う。

4 意見交換

(1) 清瀬市におけるコミュニティ・スクールの推進について

(事務局)

前回会議で、今後の市の考え方やスケジュールを説明させていただいた。今回は、議長に教えて頂き、以前NHKで放送された他市の地域の連携と活動事例の25分程度の動画を見て頂こうと考えている。具体的には香川県高松市のコミュニティ・スクールの指定を受けている小学校の内容である。学校の教育活動のサポートで積極的な活動をしている「おやじ塾」の活動事例や、千葉県習志野市の小学校の学校と地域が対等な協力関係を築いている事例などが紹介されている。地域にいる様々な特技や経験を持った人が学校に関わることで、お互いにどのようなメリットがあるのかが良く分かる内容となっているので、ご覧いただきたいと思っている。動画を見て頂いた後、今後清瀬の学校支援活動の輪

を広げていくためにどのようなことが出来るのかをテーマに意見交換をしていただきたい。

～動画の視聴～

(事務局)

今までの動画を見て頂いた上で意見交換をお願いしたい。

(高井議長)

NHKアーカイブスには大量の動画が載っているので、是非使っていただければと思う。私も大学の授業で活用することがある。秋津小学校は、「新しいタイプの学校作り」という文科省の事業があつて、その一つが秋津小学校、京都内の小学校、足立区の五反野小学校、3つの指定校となった。その後、法改正などもあり、足立区の五反野小学校が日本で最初のコミュニティ・スクールに指定された。その中で、秋津小学校はそのすぐ後に設置された。岸さんが本を書いて、この業界でベストセラーになった。コミュニティ・スクールを広めていく役割のCSマイスター制度があるが、その一人として活動している。要望の多い地域に派遣され、研修をしたりアドバイスをしたりしている。そういう流れで栗林小学校にもいかれたのだと思う。動画の中でも、地域から学校への一方的な支援ではなく、双方向の「協働」が大切だと言っていた。

(高井議長)

「その他」の部分は何分くらい想定しているか。

(事務局)

5分程度を想定している。

(高井議長)

では、今の映像を見た上で、感想や気付いたことなどを10分程度で出していただければと思う。

西田委員はいかがであるか。

(西田委員)

重要なキーワードは、「学校と住民は対等なパートナー」だと思った。体験談だが、自分自身の子どもが通っていた小学校は垣根が低く活動がしやすいと感じていたが、5年前に清瀬に来た私が小学校で活動しようとする、と、すぐハードルが高く感じる。何度か食育等で7小に行ったことがあるが、ただの「地域の人」という立場になってしまうと、一

気にハードルが上がり、垣根が高いと実感した覚えがある。

(高井議長)

垣根を低くするにはどうすれば良いか何か考えはあるか。

(西田委員)

時間はかかると思うが、話し合いを重ねて「対等」という関係を丁寧に説明する必要があると感じる。それは、地域だけでなく学校側も同じだと思う。

(高井議長)

秋津小学校のようにコミュニティルームが4つくらいあり色々な活動が行われていて、学校の中に地域の人がいることが当たり前の状況になれば、垣根が低くなるかもしれない。

ハードルが高いと感じる人に対して、学校支援本部コーディネーターの齊藤委員はどのように地域と学校を繋いでいこうとお考えか。動画の感想などでも良いので、お話しをお聞かせいただきたい。

(齊藤委員)

動画を見て「コーディネーター」の存在がキーワードになっていると感じた。学校もコーディネーターもきっかけがあればどんなことでも出来るとは考えているが、きっかけを上手くつかんで、そのきっかけをどのように繋いでいくか、ということがとても大切であると思った。きっかけが一つのことでは終わるのではなく、先に先に繋いでいけるのが理想だと思う。

(高井議長)

地域学校協働ということで、学校教育の支援というのが一つ社会教育・生涯学習の中で大事な取り組みである。

松山委員から見て、学校と地域が協働していく時に、間を繋ぐようなコミュニティ・スクールの人たちや学校支援本部の人たちなど、そのような活動をしている人たちを見て何か感じたことはあるか。

(松山委員)

自分自身でコミュニティ・スクールに杉並区で関わっていることもあって、今回の動画を見て強く思ったのが、それぞれの地域によって在り方は全然違うものだと思うので、清瀬でコミュニティ・スクールを広げていくにあたって、清瀬の各地域にどういう人達がいるのか、どういう文化を元々持っているのか、まずは知っていく事が重要だと思う。活動

が盛り上がっていくためにはキーマンが必要だと思った。学校・家庭・子どもがどういう状況なのかをしっかりと踏まえ、そこが上手くマッチしていくと良いと思った。

(高井議長)

杉並区では基本構想のパブリックコメントを受けているようで、その中で社会教育に係る「社会教育士」という言葉が、パブリックコメントに載っている。

動画の中で、学校の先生からの発言もあったが、菊地委員いかがであるか。

(菊地委員)

動画を見ながら、自分の学校に当てはめて考えていた。これからの学校は、地域の核となっていくと思う。それがコミュニティ・スクールなのかはまだイメージ出来ていないが、地域の中の学校というイメージを持っている。先ほど西田委員が仰っていた、学校と関わらないと敷居が高くなる、という部分をどのように低くしていくか、何か仕掛けが出来ないかと考えていた。地域には眠っている人材がいる、と動画の中で出てきたが、人材を掘り起こすのは、アンケートなどで「学校で協力してくれる人いませんか」と呼びかければ結構出てくると思う。しかし、実際に出てきた時、せっかく出てきてくれているのに、あまり学校からお願いする機会が無かったら上手くいかないかもしれない、など色々と危惧することもある。マイナス面ばかりを見ると駄目だということは分かっている。どうやってプラスに変えて行くか整理がついていないが、いま色々と考えるヒントを与えて下さったので、最終的には地域の中の学校で、地域の人をひっくるめて「対等」ということが出たが、いま公民館で親が積極的に活動しているサークルなども学校の中に取り入れていくことも今後考えていく必要があるかと思っている。地域の中で本物に触れて生きていくことで、子どもたちは将来地域を背負っていく人材になっていくことを考えると、やはり子供たちに地域への所属意識を持たせていくためには、学校と地域とのつながりを持たせていくことが重要な役割を果たしていくのかなと思う。

(高井議長)

地域コーディネーターの役割として、学校がやることとコーディネーター中心にやることを整理することが大事になってくると思う。コミュニティ・スクールは学校支援の組織ではないので、学校のよりよい運営に関わっていくのがコミュニティ・スクールの意義。3本目の動画は5分くらいだが、秋津小学校を見た方々が戻ってからどのように動いているかが描かれているので、また是非見て頂ければよいと思っている。

副議長から何か感想やご意見などはあるか。

(島澤副議長)

色々な活動の中で、いきいきとしたお父さんの「子どもたちの笑顔が楽しみで見たい」

という言葉が印象的だった。学校と地域で皆さんが上手くまとまっているのが見えたので、清瀬でもそのような方向に繋がるとよいと思った。「楽しみ」が集まることに繋がって、それが学びに繋がるような、学校と地域の繋がりが広がっていける環境が望ましいと思う。

(高井議長)

「楽しみながら自分が好きなことを学校に持ち込んで、子どもが参加して一緒に楽しめてしまう」など色々なキーワードがたくさん出てきたと思った。ビオトープ公園を作るのに自ら関わったことで憩いの場だと感じ、自分の子どもが卒業してからもビオトープに孫を連れて遊びに来たりしている人もいるので、作る段階から参加したという経験は非常に大きいと思う。学校の頼まれたことだけをやるというわけではなく、自ら楽しみだからやる、というような関係が大切。学校は子供たちのためだけでなく、地域の学校ということを考えてみると、学校という場所自体が地域の方が輝ける場所になっていくとよい。それが子供にとってもプラスになっていくような、そういった学校をどのように作ろうかということコミュニティ・スクールの中で考えていく部分と活動を一緒にやっていくという部分とを連携しながら考えていければよいと思った。

清瀬市としてどのように考えていくのか色々な問題があると思うが、進捗状況などを報告していただきながら地域と共に歩む学校を作っていただきたいと思う。地域の方がどのように変わっていくのか、これからも一緒に考えていく時に、この動画は参考になると思った。

本日の意見交換はこれで終了したいと思う。

5 その他

報告

(報告1) 令和4年成人記念式典について

まだ決定していない部分があるが、現段階で考えていることをお伝えするので、参考までにお聞きいただければと思う。

現状では、実際に集まって式典を開催する方向で検討している。日時は、令和4年1月9日(月)に開催予定。場所は清瀬けやきホール。在住地区ごとに2部に分けて開催予定。時間は今後決定するが、午後2時くらいまでには全て終わらせるようなスケジュールで行いたいと考えている。対象者は、平成13年4月2日から平成14年4月1日生まれの769名。例年7割程度の来場者なので、538名を想定している。1回あたりは269名。内容

は、式典を30分～40分程度、その後、恩師からのメッセージ映像を10分程度で実施。2回に分けて実施するので、アトラクションや来賓については今後検討する。映像は8月から撮影開始予定。

（報告2）都市社連協東京大会の変更について

令和3年11月11日（木）、12日（金）に実施予定であったが、県をまたいでの移動や飲食を伴う情報交換会について慎重な意見が多かったため、11日（木）のみで開催することが、5月18日に開催された第8回都市社連協実行委員会で決定された。例年、2名程度で参加しているので、詳細は追ってお伝えする予定。

（高井議長）

先程、議論の中で松山委員からコロナ禍でリモートやオンラインが広がってきているが、では、コロナが終息したら元の形式に戻るのか、ということも含めて問題提起があったと思うので、今後新しい世の中での学習や会議の在り方なども含めて、もちろん大学の授業の在り方にも関係しているが、どういう状況でも学びを止めないような仕組みをWi-Fiの整備等も含めて実施していくことが課題になっていくと感じた。

5 閉会

次回 令和3年度第3回社会教育委員の会議 令和3年8月30日（月）午後3時～5時
※場所は、今後本庁舎で実施予定。

以上